

ボランティア通信

令和8年9月24日 日吉小・中学校区地域学校協働本部発行

★ 井谷家住宅利活用プロジェクト ★

5月8日(金)に、中学校全校生徒が「井谷家住宅」を訪れました。地域おこし協力隊の方に周辺を案内していただき、井谷正命・正吉親子のことについても説明していただきました。井谷家住宅は明治期の建築物で、二階に遮光の窓が取り付けられており、当時としては斬新な造りになっているそうです。また、日吉の町並みをいつも見渡せるように、住宅前の石垣を低く構えていることも特徴の1つです。

日吉村初代村長の正命氏は、生活に困っている人々への救済策として、住宅裏に給水用の隧道を造らせて賃金を与えたり、私設の農業学校で農業を教えたりしたそうです。

正命氏の息子の正吉氏は、明星ヶ丘で四国初のメーデーを開催し、社会運動を熱心に行いました。また、「武左衛門及び同志者記念碑」の建立を完遂し、政界にも進出したそうです。

最後に、グループに分かれて今後の井谷家住宅の利活用について話し合い、発表しました。ふるさと日吉を守るために、それぞれができることを考えた深い学習になりました。



★ 果樹試験場見学 ★

6月12日(金)に、小学3・4年生が、町内にある「果樹試験場」を見学しました。運営されている鬼北農業指導班の職員の方々に案内をしていただき、様々な果樹を見学しました。それぞれの収穫時期や、栽培している際に工夫されていることなどを丁寧に説明していただき、児童たちは真剣に耳を傾けていました。

最後には、柑橘の一種である「紅まどんな」の栽培を見学し、将来的には鬼北町から紅まどんなが出荷されるかもしれないという話に、児童たちはとても興奮していました。

日吉地区では見ることでできない果樹も見学することができて、大変貴重な郷土学になりました。



★ 福祉体験学習 ★

7月6日(月)に、小学5・6年生と中学1～3年生が、農林業者トレーニングセンターで「福祉体験学習」を実施しました。講師には、鬼北町社会福祉協議会の職員の方々をお迎えしました。

前半は、「高齢者疑似体験学習」を実施しました。2人1組のペアになり、1人は視界のよくない眼鏡や手袋を装着した状態で歩行したり、皿の中にある碁石を箸でつまみ、別の皿に移したりしました。もう1人は介助者を体験しました。

後半は、「車椅子体験学習」を実施しました。こちらも、前半同様に2人1組のペアになり、1人は車椅子に乗り、もう1人は車椅子操作の介助者になりました。三角コーンや運動マットを障害物に見立てて、車椅子操作の体験をしました。

それぞれの立場に立って見たことで、児童生徒たちの思いやりや助け合いの心が育まれた、福祉体験学習になりました。

